

防災の日

非常食かみしめ 万一へ余念なし

南魚沼の小中学校



アルファ米などの防災給食に興味深そうに食べる大巻中
生徒＝1日、南魚沼市

防災の日の1日、南魚沼市では小中学校と総合支援学校計23校で、地元産のコシヒカリを使ったアルファ米などを提供する「防災給食」を実施した。中越地震10年に合わせ、子どもの防災意識を高めるのが狙い。生徒らは水で戻したパック詰めのご飯を珍しそうに食べ、「おいしいね」などと言いつけていた。

南魚沼市では、アルファ米、乾燥ワカメ、水、クッキーの防災給食を5400

食用意。2日に提供する3小学校を合わせ、全小中学校で防災給食を実施する。

給食の1時間前に、アルファ米のパックにワカメと水を入れ準備。出来上がる260分のワカメご飯となる。水は同市の八海山の湧き水、クッキーも地元産米粉で作られている。

乾燥ワカメを生産した宮城県石巻市の漁業生産組合「浜人」の漁師も大巻中と五十沢中に来校し、東日本大震災の経験を話した。大巻中を訪れた浜人の西條達也さん(28)は「記憶は風化する。このような機会に当時は振り返り経験を伝えていくことで、災害から身を守る助けになれば」と話した。

大巻中3年の阿部新君(14)は「思ったよりご飯はおいしかった。災害食を食べたり大震災の話を知ったりして、災害が起きたらどう逃げようかなど、あらためて考えた」と話していた。